

テーマ：対象者を生活者として視ることができる看護師の育成を目指して

- 1) カテゴリー : ③ 教育方法
2) 学校概要 : 丹波市立看護専門学校 兵庫県丹波市氷上町石生 2069 番地 2
3 年課程、1 学年 40 名定員、3 年修業

本校の教育理念の中に「地域に愛着をもち、地域住民の健康的な暮らしを支援できる看護実践者の育成」を掲げています。看護教育において、看護の対象を一人の生活者として捉える能力を育むことは不可欠です。しかし、社会構造の変化や人々の価値観の多様化により、地域のコミュニティは希薄となり、学生が他者の「生活の価値観」を考え、多様な暮らしの在り方に目を向けることが難しい現状があります。そこで、地域の人々の暮らしや在宅療養されている方の暮らしを肌で感じとり価値観に触れるための教育を地域・在宅論の中で行っています。

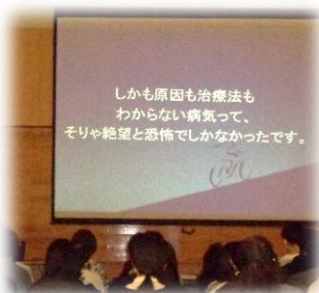
地域住民と生活を共にする

『暮らしを支える看護』の科目の中で①駅周辺の比較的利便性の高い地域と、②商店の少ない過疎地域の異なる環境において、生活を共にする地域視診演習を行っています。地域の方々に 1 日ホームステイの受け入れを依頼し、賛同いただいたお宅に学生が出向き、1 日生活を共にします。農作業や地域活動を共に行う中で、学生は人々の暮らしに対する思いを知り、自分の感覚では「不便」と感じる環境であっても、住民の方々にとっては深い愛着と誇りを持った暮らしの場であることを学習します。また、異なる地域で実習した学生の学びを共有する中で、多様な地域の生活者の姿を捉え、視野を広げていきます。このプロセスにおいて、学生は自身の価値観を相対化し、「有意義な暮らし」は個々によって異なることを理解し、人々の価値観やそれを基盤にした生活を尊重することの大切さを感じ、身につけていきます。それと共に、この経験や人々の温かさを通して、地域により深い愛着を感じ、地域への貢献意欲を高めていきます。

演習を始めて 4 年が経過し、学生の実施後の学びなどから感じた教育効果として、①自身の常識に当てはめるのではなく、対象者の価値観を受容する姿勢が醸成された ②地域の課題を否定的に捉えるのではなく、その地にある資源や強みに目を向け暮らしを肯定する姿勢が育まれたと感じています。



難病（ALS）にて在宅療養中の方の語りを聴く



地域・在宅看護において、住み慣れた場所で生活されている方の思いや、療養を支える人々の役割と意思を理解することは必要不可欠です。そこで、在宅療養されている ALS（筋萎縮性側索硬化症）の当事者の方に協力いただき、ご本人の語りを聴く時間を設けています。ご本人の希望もあり、人工呼吸器装着にてベッドで来校いただき、自ら作成されたパワーポイントを教員が代読して伝えていきます。事前にお聞きしたい内容を学生が提出し、それに対して回答をいただく時間も設けています。当日はかかりつけ医、訪問看護師、ヘルパー、コーディネーターである保健師の方々も同席され、それぞれの専門的な役割や支援に込めた熱い思いを伝えてもらっています。

学生は本人の語りから、疾患の受容に至るまでの葛藤と苦しみ、現在の暮らしに対する思いを知り、難病と闘う方の苦悩を目の当たりにします。また、サポートされる方々の慈愛に満ちた姿勢と当事者との信頼関係の深さに感銘を受けます。

こうした体験を通じて、学生の視点は、在宅療養者を「疾患を持ち、療養を余儀なくされる人」という捉え方から、「人生を歩み、自らの意思で明日に向かっていく一人の価値ある人間」という本質的な理解へと変化していきます。この気づきが、学生達が将来、対象者の心に寄り添い、その人らしい生き方を支える原動力になることを期待しています。

